

南信州地域の発展方向

飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村

基本目標「皆でつなぐ 南信州農業の新たな時代」

農業・農村の特徴

南信州地域は、山間傾斜地が多く1戸当たりの耕地面積が狭いものの、温暖な気候や標高差を生かし、果樹、野菜、花き栽培、肉用牛、養豚等の畜産など、多品目生産による複合経営が展開されています。中でも、農業産出額の1位を果樹が占め、長野県を代表する果樹産地の一つです。

現計画と同様の農産物産出額
円グラフ（2020年産）

現計画と同様の総農家戸数、耕地面積、
農産物産出額棒グラフ（2020年）

めざす姿

I 次代へつなぐ南信州農業

- 新規就農者、中核的経営体、定年帰農者など多様な担い手により、南信州地域の特性を活かした農業経営が展開されています。
- 円滑な樹園地継承や新品種・新技術の導入により県内有数の果樹産地が維持・発展しています。
- 地域の特徴を生かした野菜、花き、きのこ、畜産等の多品目生産による安定した複合経営が展開されています。

II 人と人がつながる南信州の農村

- 地域の話し合いを通じて地域農業の将来像が明確化し、担い手の確保や適切な農地利用が図られています。
- 地域活動により維持された農村景観が観光利用されるなど、農村の多面的機能が十分に発揮されています。
- 農業水利施設の計画的な改修や、地すべり防止施設の整備更新により、安全で災害に強い地域づくりが進んでいます。

III 「食」と「農」がつながる南信州

- リニア中央新幹線開業や三遠南信自動車道開通によるつながり人口の増加を見据えて、南信州らしい「食」を介した交流の促進や「観光＋農業」が一層盛んになっています。
- 食育・農育を通して、子どもたちや家族等へ、地元の「農」や「食」への理解が深まり、地産地消が更に定着しています。

施策の展開方向

I 次代へつなぐ南信州農業

重点取組1 皆が憧れる農業の担い手の確保・育成

農業経営体の減少スピードが加速化し、農業の担い手確保・育成の強化が必要であり、皆が憧れるような農業の実践が求められています。

【達成指標】

| 項目 | 2021年度 (現状) | 2027年度 (目標) |
|---------------|----------------|----------------|
| 49歳以下の新規就農者数 | 41人 | 検討中 |
| Iターン就農者数(単年度) | 8人 | 8人 |

【具体的な施策展開】

- 県、市町村、JAが連携し、相談活動及び就農作戦会議の開催、研修事業、経営発展支援等の充実による担い手確保・育成の強化
- 新規就農者や中核的経営体の資質向上、多様な担い手の支援
- マッチング機会の創出や農福連携等による多様な支え手の確保を推進



【土づくり講座】

重点取組2 新技術や新品種拡大による競争力の強い果樹産地づくり

後継者不足、老朽化園の増加などで産地の維持に懸念が生じており、新たな品種への転換、早期多収・省力化技術の拡大等が必要です。

【達成指標】

| 項目 | 2021年度 (現状) | 2027年度 (目標) |
|----------------------------|----------------|----------------|
| 日本なしの早期多収省力栽培技術導入面積 | 4.6ha | 10ha |
| 担い手への市田柿集積面積 (農地中間管理事業) | 5.7ha/年 | 6ha/年 |

【具体的な施策展開】

- 日本なし産地再生プロジェクトにより、JA等関係機関と連携し、産地の再構築を推進
- りんご高密度栽培など省力化・生産性向上の推進と県オリジナル品種の戦略的拡大
- 市田柿の円滑な樹園地継承と「市田柿+α」複合経営の推進
- シャインマスカットやナガノパープル、クイーンルージュ®等無核大粒品種の生産拡大によるぶどうの産地化



【なし樹体ジョイント栽培】

重点取組 3 南信州らしさを活かした複合産地の構築

多品目複合産地の振興のため、南信州に適したスマート農業技術の導入による省力化と生産性の向上、環境への負荷低減、気候変動への対応等が必要です。

【達成指標】

| 項目 | 2021 年度 (現状) | 2027 年度 (目標) |
|-------------------|-----------------|-----------------|
| きゅうり・アスパラガス施設面積 | 36ha | 39.5ha |
| 農業用マルチローターによる防除面積 | 21ha | 70ha |

【具体的な施策展開】

- きゅうり・アスパラガス・白ねぎの安定生産
- ダリア等主力品目花き生産への支援
- きのこの経営安定
- 信州プレミアム牛肉・銘柄豚などの生産拡大及び家畜防疫対策の徹底
- スマート農業技術の導入による省力化や生産性向上の推進
- 環境への負荷を低減した有機農業等の持続可能な農業の推進
- 気候変動に対応した技術の導入及び経営継続のためのリスク対策の推進



【マルチローターによる
水稲防除】

II 人と人がつながる南信州の農村

重点取組 4 皆でつなぐ豊かな農村

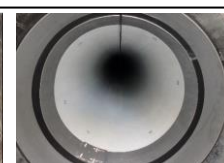
地域の話し合いにより、地域農業の将来像を明確化し、守るべき農地の適切な利用が必要です。また、農業水利施設や地すべり防止施設等の計画的な整備更新が必要です。

【達成指標】

| 項目 | 2021 年度 (現状) | 2027 年度 (目標) |
|-----------------------------|-----------------|-----------------|
| 防災重点農業用ため池の耐震性診断の期間内実施箇所数 | － 箇所 | 20 箇所 |
| 地すべり防止施設に対する長寿命化対策の期間内着手地区数 | － 地区 | 10 地区 |

【具体的な施策展開】

- 地域の話し合いにより守るべき農地と担い手を明確化
- 伝統野菜や茶などの豊かな食文化や栽培技術の継承を支援
- 集落機能を維持するため、野生鳥獣被害対策などを支援
- 農村の多面的機能の維持と活用促進
- 水路など農業用施設の長寿命化、農村地域における防災対策の推進



【既設管を活かした内面補修】

Ⅲ 「食」と「農」がつながる南信州

重点取組5 リニア新時代 世界に通用する農村交流の体制構築

リニア中央新幹線開業と三遠南信自動車開通により交流の拡大が見込まれ、市田柿、伝統野菜など地域食材を介した交流の促進に向けた受入体制の構築が必要です。

【達成指標】

| 項目 | 2021年度 (現状) | 2027年度 (目標) |
|----------|----------------|----------------|
| 都市農村交流人口 | 38,882人 | 検討中 |

【具体的な施策展開】

- つながり人口増加を見据えた直売所の支援、「観光＋農業」の推進
- 伝統野菜、南信州牛など地域食材等を取り入れた「食」を介した交流の促進
- 食品企業との連携による地域農産物の活用を促進
- 地域農産物の生産工程管理支援による海外ブランド強化と輸出促進



【伝統野菜を活かす「食のアカデミー」】

重点取組6 農や食への理解醸成

学校給食等を通じた食育、農育を一層推進し、地域食材や環境にやさしい農産物への理解を深めることにより、南信州ならではのエシカル消費や地産地消の促進が必要です。

【達成指標】

| 項目 | 2021年度 (現状) | 2027年度 (目標) |
|-------------------|----------------|----------------|
| 学校給食における県産食材の利用割合 | 47.4% | 検討中 |

【具体的な施策展開】

- 農業体験会の開催など教育現場や飲食店関係者等との協働による食育・農育の強化
- エシカル消費を推進するため、地域農産物などの利用を促進
- 市田柿など地域農産物の魅力発信



【南信州地域食材レシピ Book】